

質疑応答について

【10月21日（土）】 会場：文化福社会館

質疑	回答
<p>退出の理由が運転手不足であるとのことだが、赤字補填をしてどうにかなることなのか。</p>	<p>箱根登山バスが事業を継続していく上で、合理化するために、赤字がある路線からカットしていくとのこと、今回、湯河原町の路線があがった経過がある。その中で赤字補填をして、赤字路線から除外してもらおうという考えである。長期的に見ると、継続してもらえないわけではないと思うが、赤字補填をして代替交通を考える時間をいただきたいという思いで、交渉していきたいという方針。</p> <p>湯河原の路線が赤字路線から除外されれば、他の町の路線が撤退路線になる可能性がある。</p>
<p>赤字補填は持続可能ではないので、バスだけでなく、他の代替手段を考えていくべき。</p>	<p>現在、運行している予約型乗合い交通「ゆたぽん号」は、乗合いタクシーで、委託先のタクシーのお客さんが少ない時間帯で運行しているため、便数は限られている。ライドシェアの規制緩和があれば、個人の車を利用して、時間を気にすることなく、利用できる可能性もあるので、規制緩和に期待している。</p>
<p>電車とバスの乗り継ぎが悪い。</p>	<p>赤字補填で継続してもらえることになれば、代替手段としてコミュニティバス化を1～2年かけて検討していくことになる。コミュニティバス化すると、町が主体となってダイヤの作成ができるので、そのあたりも考えていきたい。</p>

<p>年度内には方針は決まるのか。</p>	<p>バスの退出の期限として、箱根登山バスが申し出ているのが令和6年3月31日までとなっているが、赤字補填することによって、当面の間、現状の路線を維持してもらいたいという協議を進めているが、いつまでも維持できるか分からないので、コミュニティバス化などを並行して考えていかなければならないと考えている。</p>
<p>高齢化する中で、公共交通について、町はどう考えているのか。</p>	<p>交通不便地域をいくつか定めており、乗合い交通の拡大なども検討したが、コロナの影響により、タクシーが少なくなっているため、その検討も白紙状態である。そうした中では、ライドシェアについては、期待している。</p>
<p>免許返納や身体の不調により、より近くに停留所が必要になる人が増えている。</p>	<p>一人一人の要望には応えられない。</p>
<p>コミュニティバス化すれば運転手が確保できるのか。</p>	<p>バス路線の契約とは違う形の契約になるので、運転手の確保はできる。</p>
<p>終バスが早い。バス路線があるというだけでなく、必要な時間に運行してくれないと意味がない。</p>	<p>バス会社もサービス事業ではないので、何時を最終バスにするかかなり考えた中で設定していると思う。 コミュニティバス化すれば、ある程度、町でダイヤを検討できるため、そうなった場合は、今より上手く組めればと考えている。</p>
<p>コミュニティバス化すれば、運転手が確保されるならば、すぐにコミュニティバス化するべき。</p>	<p>現在は、民間の事業者が運行しているため、税金は投入されていないが、コミュニティバス化して、税金を投入することになるが、すべてが便利になるというわけではなく、生活交通を維持しなければならないというところで、どこまでサービス水準を上げられるかというのは、別の話になる。</p>
<p>現在のコミュニティバスはどこがやっているのか。</p>	<p>町が箱根登山バスに委託をして、運行は箱根登山バス。</p>

<p>朝夕の通学時間などに小さい車でもいいからコミュニティバスを出した方がいいのではないか。</p>	<p>現行のコミュニティバスの路線を変更するというよりも、撤退される可能性がある地域の路線をコミュニティバスに移行していくことを検討していくという考えである。</p>
<p>老人施設で送迎をしているバスの運転手を空き時間に活かしてはどうか。</p>	<p>すでにお話をしているが、免許の関係で現実的でなく、簡単にはできないとの回答をいただいている。</p>
<p>コミュニティバス化になった場合に、運行費用は1日に何便くらい分予算化することができるか</p>	<p>現行の路線バスの便数が基本になってくるのかと思う。</p>
<p>ゆずり葉団地線は、熱海市で補助して、1年は継続すると聞いているが、それ以降はどうなるのか。</p>	<p>他自治体のことなので詳しい内容は把握していないが、来年度については、継続することによって決定したと聞いている。 今後、熱海市だけの負担でなくなった場合は、熱海市と湯河原町との協議となる</p>
<p>天保山線が廃止するが、予約型乗合い交通「ゆたぽん号」のエリア拡大は考えているのか。</p>	<p>天保山線のエリアは、現状のコミュニティバスで代替が可能なので、エリアを増やすのであれば、不便な地域に増やす方が優先になる。</p>
<p>現在、コミュニティバスをバス事業者に委託しているが、将来的に町独自で運行することは難しいのか。</p>	<p>コミュニティバスを運行するには、プロに任せる必要がある。役場による直営ということは考えられない。</p>
<p>コミュニティバス化した際には、マイクロバスでの運行を検討してほしい。</p>	<p>コミュニティバス化した場合は、現行路線がベースとなるので、吉浜を通る路線で言うと最大10人が乗車しているため、小さい車両では対応できない。 コミュニティバス化を検討する中で、マイクロバスの意見が多ければ、その形も検討していく。</p>

<p>今のコミュニティバスは、運行経費がどれくらいかかっているか。</p>	<p>現在、運行経費から乗車運賃を差し引いた赤字補填での契約になっており、200万くらいの補填になっている。 コミュニティバス開始当初、オレンジラインを同時に実証運行したが、年間1500万の赤字になるとのことだったので、オレンジラインには路線を引けなかった。</p>
<p>限られる税収で、他の路線をコミュニティバス化することは解決策にならないのではないか。</p>	<p>生活路線とことで、議会承認を得ながら進めていく形になる。</p>
<p>熱海市の第一交通でお買い物タクシーというものがある。湯河原でも導入できないか。</p>	<p>地域が限られているが、予約型乗合い交通「ゆたぽん号」がお買い物タクシーのような位置づけで運行している。</p>
<p>「ゆたぽん号」が出ていない地域の人自身でどうにかしろということか。</p>	<p>交通不便地域でも優先順位をつけながら、交通不便解消を進めていく。</p>

【10月22日(日)】 会場：鍛冶屋会館

<p>質疑</p>	<p>回答</p>
<p>電車とバスの乗り継ぎが悪い。乗りたい人が乗れるようになれば、赤字補填額も少なく済むので、町から要望してほしい。</p>	<p>箱根登山バスも加味しながらダイヤを作成しているが、運転手不足の中で、上手くシフトが組めていないとの話は聞いている。 このお話は賜って事業者へ伝える。</p>
<p>買い物や小・中学生が利用できるようなバスの経路やダイヤが無いことに疑問を持っている。</p>	<p>現在は退出してしまうのかどうかの話の段階であるため、今後、存続した際に、変更できるのか、またはコミュニティバス化して組み換えできるのかは検討事項である。</p>

<p>運行経費は、会社全体の運行経費を距離で割って算出しているが、妥当だと考えているか。</p>	<p>全国的にこのように単価を設定して、運行経費を算出しているものである。</p>
<p>赤字補填の目途は立っているのか。</p>	<p>鍛冶屋線と長窪・福浦経由線は存続させたいとのことで9月議会で諮り、承認いただけたので、予算措置もお認めいただけると考えている。</p>
<p>赤字補填はいつまでの分までか。</p>	<p>当面の間赤字補填で継続していただきたいと考えているので、1年ごとに協議を図っていくことになる。その間に長期的な路線の維持という側面からコミュニティバス化も同時に検討していかなければと考えている。</p>
<p>2018年から赤字があったにも関わらず唐突な申出のように感じるが、今回の申し出の前からバス会社から相談があったのか。町はどのような対応をしていたのか。</p>	<p>今回、初めて退出の申し出があった。</p>
<p>赤字脱却の方策はあるのか。</p>	<p>来年3月で撤退しては困るとのことで、存続する方向で進めていきたいので、今の段階では、現状維持で存続していきたいと考えている。</p>
<p>鍛冶屋路線の場合、減便するとしても、通勤・通学時間は重点的に残していただきたい。</p>	<p>通常、退出路線の申し出があった場合は、赤字補填と同時に減便がセットになるが、今回の場合は、今年7月に減便があったので、来年度赤字補填で継続となった場合は、減便せずに現状の便数の維持との方向で協議していきたい。</p>
<p>コミュニティバス化した場合に、運転手の確保はできるのかというところで、外国人労働者の活用はどう考えるか。</p>	<p>町でも運転手確保のための要望を国に出しており、やっとならば国が外国人労働者の活用の検討に入っているのでは、注視していきたいと思う。</p>

<p>事業者との協議中とのことだが、事業者側の感触はどうか。</p>	<p>事務レベル同士での協議の段階であるが、高いレベルで合意をしている。 町の方は、議会で承認を得ている。 事業者は、事務担当から上へ上げているところで、今年中には事業者側の回答が得られることになっている。</p>
<p>箱根登山バスと他事業者と共同運行することも出来ないのか。</p>	<p>どちらのバス事業者も人手不足に変わりはないので、新たな路線を運行するのは難しいと伺っている。</p>
<p>小・中学生が夜歩いて帰っているので、通学定期を一定の条件のもと補助してはどうか。</p>	<p>所管部署に、アイデアを伝える。</p>
<p>予約型乗合い交通「ゆたぽん号」を知らない人が多い。PR 不足である。</p>	<p>予約型乗合い交通「ゆたぽん号」については、検討の段階から鍛冶屋会館でも説明会を実施していたが、ご参加の方が少なかった。PR はかなりしている。</p>
<p>予約型乗合い交通「ゆたぽん号」について、人手不足の湯河原タクシーと提携してどうするのか。</p>	<p>コロナ前から委託しているので、現在も継続して運行していただいている。</p>
<p>今回の説明会があることについて、鍛冶屋地区の回覧板で回したか。周知が足りないのではないか。</p>	<p>日程が決まった時期との兼ね合いで、回覧が回る時期が開催より後になる場合があったので、区長と相談の上、回覧板での周知は行っていない。メールマガジン、地方紙への掲載依頼などの広報活動をしていた。</p>
<p>退出意向はいつ申出されたのか。</p>	<p>令和5年4月11日に申し出があった。</p>
<p>熱海市は7月にはゆずり葉団地線の継続を決定しているが、もう少し早い段階で説明会が出来なかったのか。</p>	<p>熱海市のゆずり葉団地線については、令和4年度から赤字補填しているので、継続でこのような早い判断になった。</p>

今回の資料を持ち帰って、何か聞きたいことがあった場合はどこに問い合わせればいいのか。	地域政策課に問い合わせさせていただきたい。
存続は確定しているんですよね。	決定はしていない。現段階では事務レベルなので、決定はこれからになる。
存続が決定したら、どのように町民に知らせるのか。	広報など周知できる方法で周知する。